

ピックアップ

再生眼鏡が途上国の人々に可能性の扉を開く

落ち着きがなく勉強に遅れていた子が、眼鏡を手にした日から見えるように勉強に励み、今では医師になることを夢見ている。その子にとって眼鏡は人生を変える贈り物だ。ライオンズ眼鏡リサイクル・プログラムは不要になった眼鏡を再生し、発展途上国の必要とする人々の元へ届ける活動だ。ここでは日本での取り組みの事例と共に、オーストラリアのリサイクル・センターの活動ぶりをレポートする。

(取材/河村智子)

活動の拠点、眼鏡リサイクル・センター

世界保健機関（WHO）によると、屈折障害（近視、遠視、乱視）を患う

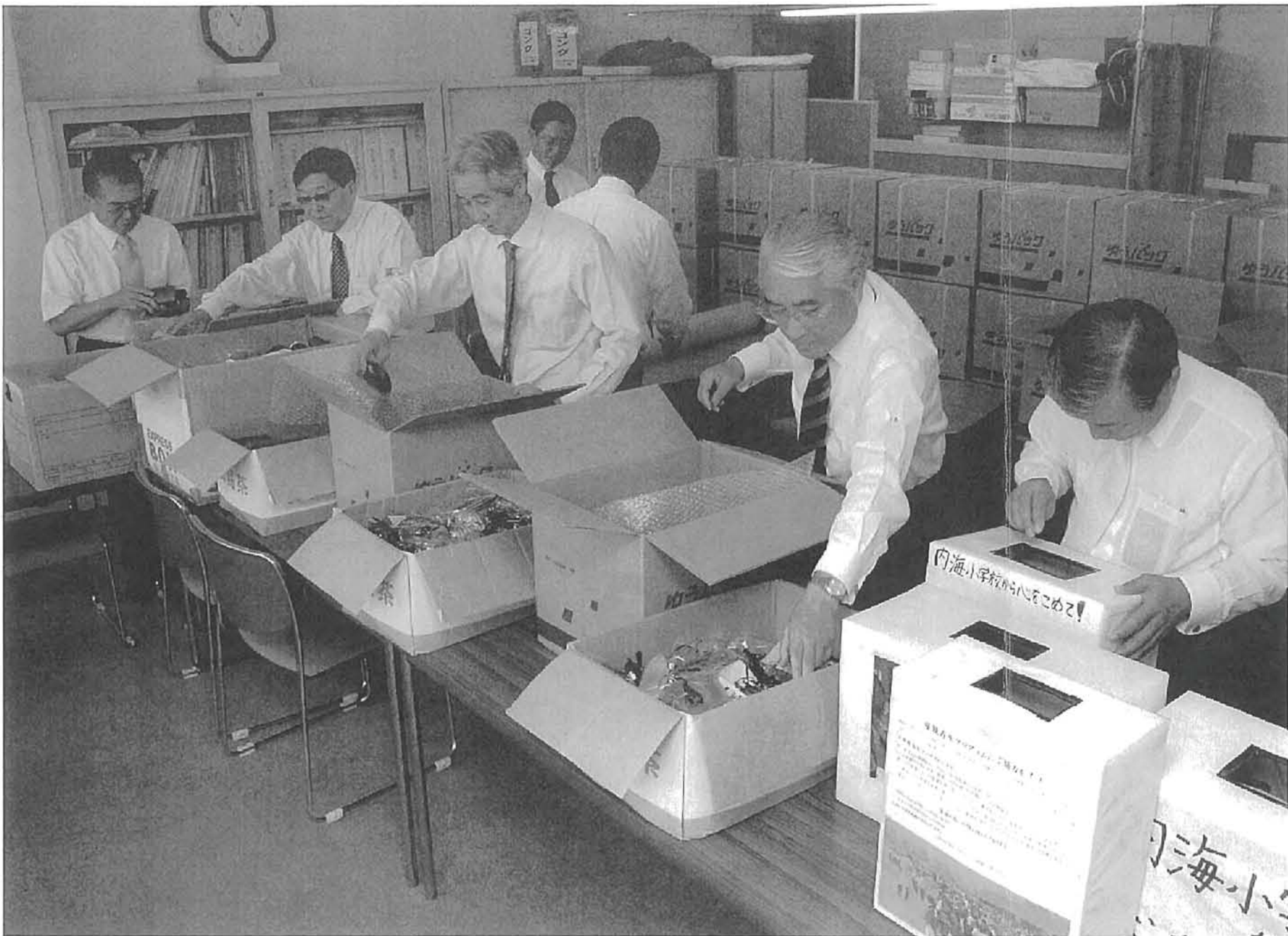
人は世界で1億5300万人に上る。その大半は眼鏡で容易に矯正出来るが、発展途上国の貧しい人々にとって、それを手に入れるのは容易なことではない。眼鏡がないために学習が遅れたり、

仕事に就くことが出来なかったり。そんな不自由な生活を送る人々に、不要になった眼鏡を届ける活動がライオンズ眼鏡リサイクル・プログラムだ。このプログラム、日本のクラブにはあまり浸透していないが、アメリカを始め海外の先進国ではポピュラーな活動となっている。クラブは町の眼鏡店やスーパーに回収ボックスを置くなどして中古の眼鏡を回収し、最寄りのライオンズ眼鏡リサイクル・センターへ送る。センターはアメリカ国内に11カ所、オーストラリア、カナダ、フラン

ス、イタリア、南アフリカ、スペインに1カ所ずつ、計17カ所。収集した眼鏡を再生して、発展途上国のクリニックや、眼鏡配布の支援を行う派遣団に提供している。2008・09年度にセンターが収集した眼鏡は合計344万6963個、配布用に提供した眼鏡は120万5020個に上った。

昨年6月のミネアポリス国際大会でも、大会サービス・センター内に中古眼鏡の収集所が設けられ、3日間で6万1463個が集まった。大会登録者約1万人として、一人当たり6個を持ち寄った計算になる。この眼鏡収集については大会の半年余り前から、国際理事会大会委員会に所属していた栢森新治国際理事（当時）が日本のライオンズの協力を強く求めている。

その呼び掛けを受けて、334・A地区（愛知）は地区年次大会で中古眼鏡の収集を行うことを決定。これに地区内クラブの7割を超える87クラブが応え、予想を大きく上回る1万5千個もの眼鏡が集まった。中には地元小学校に協力を求めたクラブもあり、子どもたちの手製の収集ボックスに詰まった眼鏡も寄せられた。地区はこれをミネアポリスへ送るつもりだったが、ここで予想外の事態が持ち上がった。国際本部によると、大会会場では1万5千個を



行政との連携で高い処理能力持つセンター

まとめて受け入れるのは難しいという。そこで代わりの送付先として提示されたのが、ライオンズ・リサイクル・フォー・サイト・オーストラリアだ。334・A地区からの大量送付の申し込みに、これを機に日本のライオンズとの連携を強めたいとの希望がセンター側から伝えられ、ミネアポリス国際大会でセンター所長を務めるケン・レオナルドと栢森の打ち合わせが持たれることになった。その席で、日本のクラブが眼鏡を送る際の注意点（18ページ）が確認され、レオナルドからはセンター運営について詳しい紹介があった。

オーストラリアのライオンズが運営するリサイクル・センターは国内外から年間25万個の眼鏡を収集。日本のライオンズからは約5万個が届けられている。設立から15年余りで、アフリカや中東、アジア、欧州、環太平洋の国々で250万個の眼鏡を配布してきた。その高い処理能力は、独自のマンパワーの確保によって維持されている。センターに寄せられた大量の眼鏡は、オーストラリア東部ブリスベン周辺にある四つの施設で洗浄、測定され、種類や度数ごとに分類、保管される。

クラブ会員の皆様へ



中古眼鏡回収ボックス (ライオンズクラブ公式用品)



眠っている眼鏡を 必要としている 人たちがいます

中古眼鏡回収アクティビティを、すぐにでもはじめられる公式回収ボックス。眼鏡店やスーパー店頭への設置に便利です。

存在感のあるデザイン

ライオンズ紋章や写真が印刷されたライオンズ公式デザイン。

省スペース

コンパクトなのでスペースに制限のある場所でも設置が可能。

余白には日本語を添えて

英語表記ですが、余白も多く、日本語のキャッチコピーを添えてご使用いただけます。

品番	G-1174DS
単価	¥103,500 1セット10箱入りです ※別途送料がかかります。
大きさ	幅30cm×奥行20cm×高20cm

ご注文、お問い合わせ先

ライオンズクラブ国際協会日本事務所まで。

TEL : 03-3494-2931

FAX : 03-3494-2933

E-mail : lcjapan@amber.plala.or.jp

下取りキャンペーンは3回にわたり実施。店頭や新聞広告、ホームページの案内には、「お客様が提供された眼鏡は『ライオンズ眼鏡再生センター』を通じて海外の眼鏡を必要とする人に配布されます」という文言が謳われた。

クラブにはキャンペーンが終了することにより下取りされた眼鏡が届き、10月から12月にかけて3回の発送作業を行った。フレームが破損した眼鏡を取り除きながら段ボール箱に詰め込み、梱包していく。発送は船便の国際小包で、14プログラムまで1個8150円。2回目のキャンペーンで集まった1万4千個は25箱に詰め込まれ、発送された。

東京早稲田、東京三軒茶屋の両クラブには他にも同様の申し入れが寄せられており、企業とのコラボレーションは今後更に広がりをうけた。



名古屋と東京で眼鏡の梱包作業を取材し、その数の多さに驚いた。日本中でいったいどれだけの眼鏡が使われずに放置され、また捨てられていることだろう。黙々と詰め込み作業を続けるメンバーからは時折、「これなんか、かつこいいね……」と声が上がった。

集まった眼鏡の中には使い古した物や明らかに流行遅れのデザインの物もあるが、ほとんどは新しくまだ十分に使えるものだ。その捨てられるはずだった眼鏡が、どこかで誰かの人生を変えるような贈り物となる。それがライオンズ眼鏡リサイクル・プログラムなのだ。

●同プログラムの情報と世界17のリサイクル・センターの連絡先は、公式ウェブサイト(www.lionsclubs)を参照。

広がる企業とのコラボレーション

ミネアポリスでの打ち合わせを経て、334・A地区が収集した1万5千の眼鏡

四つの施設で再生された眼鏡は、ライオンズや他の人道的な奉仕団体の要請を受けて発展途上国での眼鏡配布プロジェクトに提供されている。現在、オーストラリアのライオンズはアフリカやティモールでのプロジェクトを計画。センターではその実現に向けて、年間50万個の眼鏡収集を目標としていると言っている。

このうち二つは女性受刑者の社会復帰センター内にあり、平日はほぼフル稼働。他の二つは公的機関から安価に借り受けた施設で、週3〜5日稼働する。ここで作業に当たるのは、主に刑事罰として社会奉仕を科されたり、就労経験や地域貢献プロジェクトへの参加を義務づけられた失業者の人たちだ。国や州政府との連携でそうした人々を受け入れ、ライオンズは作業の監督役を務める。これによりセンターは眼鏡再生という本来の目的だけでなく、更正や社会復帰の支援の場にもなっている。行政との連携の他、オーストラリア郵便公社の協力や企業の資金援助を受け、センターの運営は順調だ。

は24個の段ボールに梱包されて、8月末に発送された。処理能力の高さは定評のあるオーストラリアのリサイクル・センターだが、昨年から年末にかけては目の回る忙しさを経験したに違いない。

334・A地区に続いて、東京三軒茶屋ライオンズからも10月に7千、11月に1万4千、12月に7200の眼鏡が届けられたからだ。同クラブが集めた眼鏡は、

全国に約90店舗を展開する眼鏡販売会社ZOFFから提供されたものだ。

330・A地区(東京)では東京早稲田ライオンズが以前から眼鏡収集に取

中古眼鏡収集の注意事項

～リサイクル・フォー・サイト・オーストラリアの場合～

○眼鏡の種類について

視力矯正用の眼鏡の他、老眼鏡、サングラスを収集している。特に子ども用眼鏡は不足しがち。日本からの眼鏡は大人用でも小振りな物が多いので、子ども用として利用出来る場合もある。

○眼鏡の質について

フレームが壊れていなければ古くても再生可能。日本から届く眼鏡はどれも状態が良く、リサイクルする上で何の問題もない。

○センターへの連絡について

眼鏡を送送する前に、個数や発送時期をあらかじめ連絡して受け入れの可否を確認すること。

○梱包について

日本からの眼鏡は個々にパッキンにくるむなど丁寧に梱包されている場合が多い。作業の手間を省くためにも梱包は簡単に。一段ずつ新聞紙を挟んで重ねる程度でも特に支障はない。

○関税について

中古眼鏡に関税を課されることはない。送り状の品目に中古(USED)であることを明記。

○支援先について

再生した眼鏡はライオンズやその他組織が行う配布プロジェクトに提供し、配布される。もし自分たちが集めた眼鏡を特定の国に寄贈したいとの希望があれば応じることも出来る。

わがが寄せられるようになった。ZOFFもその一つ。下取りキャンペーンで集まった眼鏡の活用を検討するうちライオンズの眼鏡リサイクル・プログラムを知り、330・A地区に寄贈を申し入れてきた。その対応を引き受けたのが、東京三軒茶屋ライオンズクラブはたくさんさんの眼鏡が集まることを見込んで、オーストラリアのリサイクル・センターに大量受け入れの可否を確認。了解を受けた上で対応を協議し、国内の送料はもちろん、オーストラリアへの送料もZOFF側が負担することになった。